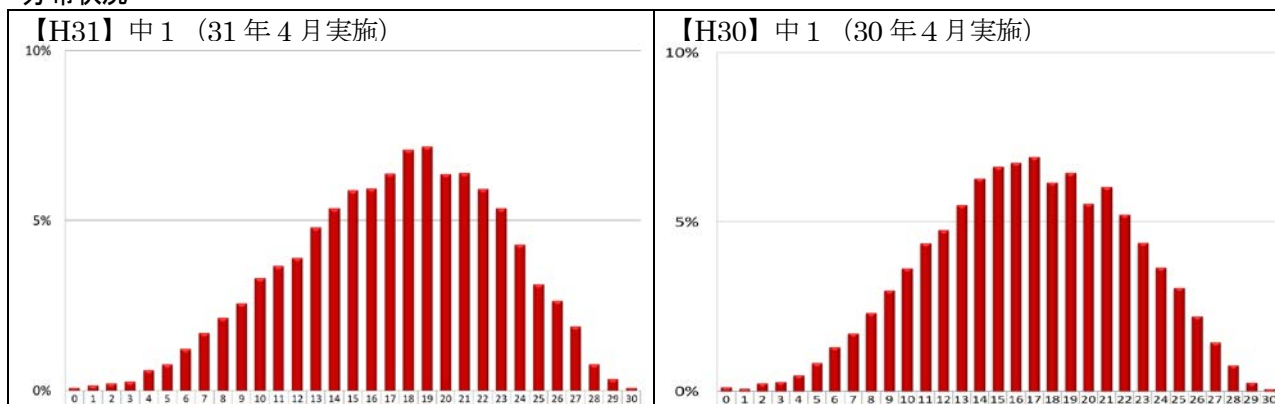


授業改善の手引 中学校第 1 学年国語

1 調査結果

(1) 分布状況



- 問題数は昨年度と同様 30 問、正答数の最頻値は 19 問、平均正答数は 17 問です。昨年度と比較すると、分布の山に大きな変動はありませんが、正答数 16 問以下の生徒数が 42%と、昨年度より 5 ポイント少なくなっています。
(正答数の最頻値：該当する生徒数の最も多い正答数)

(2) 領域等の正答率

領 域 等	正答率 () は H30 新入生学調、< > は H29 県学調
話すこと・聞くこと (4 問)	65% (72%) <66%
書くこと (3 問)	37% (45%) <46%
読むこと (10 問)	43% (44%) <54%
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (13 問)	72% (62%) <69%
活用 (3 問)	33% (49%) <42%

(3) 結果概要

- 領域ごとの正答率において、「読むこと」が 43%と昨年度より 1 ポイント下回ってはいますが、経年比較問題にもなっている小問ごとの正答率においては、「話し合いにおける司会の役割がわかる」問題が 70% (+13 ポイント)、「場面の描写と登場人物の様子を読む」問題が 37% (+7 ポイント)、「文章の構成をとらえて読む」問題が 47% (+2 ポイント) でそれぞれ上回り、改善傾向にあります。
- 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が 72%と昨年度を 10 ポイント上回りました。特に、小問ごとの正答率において、「和語・漢語・外来語の区別について理解する」問題が 70% (+25 ポイント)、「文脈に沿って、漢字を適切に使う」問題が 63% (+6 ポイント) でそれぞれ上回り、改善傾向にあります。
- 領域ごとの正答率において、「話すこと・聞くこと」が 65% (-7 ポイント)、「書くこと」が 37% (-8 ポイント) と昨年度を下回る結果となりました。特に、条件に基づいて記述する問題 (大問 5) の正答率の低さが目立ちました。
- 活用問題 (3 問) が 40%と昨年度を 9 ポイント下回りました。また、「書くこと」領域の無解答率の割合が 32%と昨年度より 8 ポイント上回ったことから、表現様式や条件に応じた文章を書くことについて、引き続き指導の工夫が必要な状況にあります。

(4) 小問別正答率

問題番号				調査問題のねらい	学習指導要領との関連	主な観点	備考	正答率	選択 No. (%)						
大問	中問	小問	通番号						1	2	3	4	5	6	0
									選択	選択	選択	選択	誤答	正答	無解答
1	(1)	1		話し手の意図を考えながら、話の内容を聞く。	第5・6学年「話・聞」(1)エ	話・聞		37					61	37	2
	(2)	2		話し手の意図を考えながら、話の内容を聞く。	第5・6学年「話・聞」(1)エ	話・聞		69	13	9	69	9			
	(3)	3		話し手の意図を考えながら、話の内容を聞く。	第5・6学年「話・聞」(1)エ	話・聞		82	3	82	2	13			
	(4)	4		話し合いにおける司会の役割がわかる。	第5・6学年「話・聞」(1)オ	話・聞	経年	70	9	13	7	70			
2	(1)	①	5	第6学年配当漢字「郷里」を正しく読む。	第5・6学年「伝国」(1)ウ(ア)	伝国		95					4	95	1
	(1)	②	6	第6学年配当漢字「供える」を正しく読む。	第5・6学年「伝国」(1)ウ(ア)	伝国		98					2	98	
	(2)	①	7	第5学年配当漢字「豊富」を正しく書く。	第5・6学年「伝国」(1)ウ(ア)	伝国		52					43	52	5
	(2)	②	8	第5学年配当漢字「慣れる」を正しく書く。	第5・6学年「伝国」(1)ウ(ア)	伝国		73					16	73	11
	(3)		9	日常使われる敬語を正しく使う。	第5・6学年「伝国」(1)イ(ク)	伝国		89					10	89	1
	(4)		10	ローマ字で表記されたものを読む。	第3・4学年「伝国」(1)ウ(ア)	伝国		55	55	21	15	8	1		1
	(5)	ア	11	理解するために必要な語句について、辞書を利用して調べる。(漢字辞典、部首・画数)	第3・4学年「伝国」(1)イ(カ)	伝国		67					25	67	8
	(5)	イ	12	理解するために必要な語句について、辞書を利用して調べる。(漢字辞典、部首・画数)	第3・4学年「伝国」(1)イ(カ)	伝国		79					17	79	4
	(6)		13	和語・漢語・外来語の区別について理解する。	第5・6学年「伝国」(1)イ(エ)	伝国		70					20	70	10
	(7)		14	熟語の構成を意味との関わりから理解する。	第5・6学年「伝国」(1)イ(エ)	伝国		82	3	6	9	82			
(8)		15	文の構成について理解する。(修飾語)	第5・6学年「伝国」(1)イ(キ)	伝国	経年	74	12	7	74	6				
(9)		16	故事成語の意味や使い方を理解する。	第3・4学年「伝国」(1)ア(イ)	伝国		35	35	31	9	24			2	
(10)		17	文脈に沿って、漢字を適切に使う。	第5・6学年「伝国」(1)ウ(ア)	伝国		63					29	63	8	
3	(1)		18	場面の移り変わりを読む。	第3・4学年「読」(1)ウ	読		31					66	31	2
	(2)		19	登場人物の心情を読む。	第5・6学年「読」(1)エ	読	経年	59		59	19	3			2
	(3)		20	場面の描写と登場人物の様子を読む。	第5・6学年「読」(1)エ	読		37					52	37	11
	(4)		21	登場人物の心情を読む。	第5・6学年「読」(1)エ	読	経年・活用	38					53	38	9
	(5)		22	表現の仕方をとらえて読む。	第5・6学年「読」(1)エ	読		41	17	41	14	24	1		3
4	(1)		23	文章の内容を的確に押さえて読む。	第5・6学年「読」(1)ウ	読		51					43	51	5
	(2)		24	文章の内容を的確に押さえて読む。	第5・6学年「読」(1)ウ	読		51					35	51	14
	(3)		25	目的に応じて、中心となる語や文をとらえて読む。	第3・4学年「読」(1)イ	読		38					51	38	11
	(4)		26	文章の要旨をとらえて読む。	第5・6学年「読」(1)ウ	読	経年・活用	32					42	32	26
	(5)		27	文章の構成をとらえて読む。	第5・6学年「読」(1)ウ	読	経年	47	8	16	12	47	1		16
5	条件①		28	段落構成を考えながら指定された長さの文章を書く。	第3・4学年「書」(1)イ	書		42					30	42	28
	条件②		29	表やグラフから読み取ったことをまとめて書く。	第5・6学年「書」(1)エ	書	経年・活用	29					41	29	30
	条件③		30	根拠に基づいて自分の考えを書く。	第5・6学年「書」(1)ウ	書	経年	39					24	39	37
全体正答率								58							

※整数値で表示のため、合計が100にならない場合があります。

2 指導のポイント

- (1) 話し手の場面において、話し手がどのような意図で話しているかを考えながら、話の内容を聞き取らせましょう。

ア 問題の概要

1 (1) 話し手の意図を考えながら、話の内容を聞く。 第5・6学年「話・聞」(1)エ 正答率 37%

イ 誤答分析

「意識する」、「本の返却日を意識する」という解答が多く見られました。廊下にポスターを貼ることと本に紙を挟むことに共通していることは、何度も目に触れるということです。「意識する」ことは書けていても、「何度も」意識するということが抜けていたり、何を意識するかが書かれていなかったりする解答が見られました。また、解答用紙の「ことが大事だから。」という記述内容に合わせ、「本を返す日を守る」のような「大事」だと思われる内容を書いている解答も見られました。

この問題では、二人が話したそれぞれの案について理解し、さらにその共通点を見つける力が求められています。そのため、内容の共通点を考えながら聞くことに課題があると考えられます。

ウ 指導上の留意点

- (ア) 話し手の意図をとらえながら聞くことについては、既に小学校第5学年及び第6学年（指導事項エ）で学習しています。中学校第1学年では、必要に応じて質問しながら聞き取り、自分の考えとの共通点や相違点を整理するという学習につながります。
- (イ) 指導に当たっては、発言の内容やその理由について、生徒がメモを取りながら聞いたり、内容の共通点や相違点、考えたことなどを整理しながら聞いたりすることができるようにすることが大切です。話の目的や話し手の意図が何かを考え、比べながら聞けるような場を設定することが考えられます。
- (2) 人物像や内面にある深い心情を捉えられるよう、物語の内容と表現の特徴を関連付けながら分析的に捉え、その効果について自分の考えをもつ学習活動を充実させましょう。

ア 問題の概要

3 (4) 登場人物の心情を読む。 第5・6学年「読」(1)エ 正答率 38%

イ 誤答分析

気持ちが変化した要因と詠子の気持ちという二つの中身について、決められた字数で書いていることが正答の条件です。しかし、本文の最後の行から「不安は、詠子の中でむくむくと容赦なくふくらんだ」とそのまま抜き出している解答が大変多く見られました。また、「二人の名前の位置がはなれていたから」のように気持ちが変化した要因のみを書いている解答や、「ショックが大きく不安な気持ち」のように詠子の気持ちのみを書いている解答も見られました。

この問題は登場人物の心情と、心情が変化した要因について解答する力が求められています。そのため、登場人物の相互関係から人物像や心情をとらえたり、その根拠となる叙述に着目しながら読んだりすることに課題があると考えられます。

ウ 指導上の留意点

- (ア) 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉えることについては、既に小学校第5学年及び第6学年（指導事項エ）で学習しています。このことは、中学校第1学年（指導事項ウ）の、時間的・空間的な場面の展開、人物の心情や行動、情景描写などに注意して読み、内容の理解に役立てるという学習につながります。
- (イ) 指導に当たっては、中心となる登場人物や周辺人物について、その相互関係をとらえるために、生徒が中心人物と周辺人物との関わりが分かる言葉や、行動に注意して読むことができるようにすることが大切です。登場人物の心情は、直接的に描写されている場合もありますが、行動や会話、情景描写などを通して、暗示的に表現される場合もあります。暗示されていることを叙述からとらえ、心情が変化したきっかけになった出来事や心情を表す表現の仕方などに注意しながら読むことができる場を設定することが考えられます。

- (3) 目的に応じて、内容をいきなり文や文章にまとめるのではなく、文章の内容、要旨を的確にとらえて、音声言語を取り入れた言語活動を位置づけましょう。

ア 問題の概要

4 (4) 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえて読む。

第5・6学年「読」(1)ウ 正答率32%

イ 誤答分析

無解答率は26%でした。誤答を分析すると、「ハンティングエリア」という語を用いないため時数制限にあてはまらなくなるもの、問題にある「に続く形で」を読み切れずに、以降にある内容を入れ込む分、本来盛り込むべき大事な内容が欠けてしまうものが多く見られました。キーワードの近辺にのみ注目し、言葉をつなごうとしたと考えられます。

ここでは、文章全体を俯瞰的に見て、その中で内容を的確に押さえる力が求められます。書き手の伝えたい内容を的確に押さえて要旨をとらえる力に課題があると考えられます。

ウ 指導上の留意点

(ア) 小学校では、第3学年及び第4学年の指導事項イを受けて、第5学年及び第6学年では、目的に応じて文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、自分の考えを明確にしながらかんたりにすることを学習しています。このことは、中学校第1学年「読むこと」の指導事項イ「文章の中心的部分と不可的な部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすること」につながります。

(イ) 指導にあたっては、生徒に対して、読み取った内容を書き表すまでの段階を丁寧に踏ませることが必要です。読み取った内容をいきなり文や文章にまとめるのではなく、声に出して友達と確認したり、図示しながら説明したりするなど、音声言語を取り入れた言語活動を位置づけることが考えられます。

- (4) 得た情報の中から自分の考えの根拠となる事柄を捉え、根拠を明確にして書く学習を大切にしましょう。

ア 問題の概要

5 条件② 表やグラフから読み取ったことをまとめて書く。第5・6学年「書」(1)エ 正答率29%

条件③ 根拠に基づいて自分の考えを書く。第5・6学年「書」(1)ウ 正答率39%

イ 誤答分析

誤答の多くは、条件②「資料A・Bから読み取ったこと、それをもとに分かったこと」に反して、「資料A・Bを比較できないもの」「事実と考察を混同してしまうもの」、条件③「どうしていききたいか自分の考えを」という条件に反して、「読み取ったこと分析・解釈・予想を書いてしまうもの」「考えが根拠とかみあっていないもの」でした。

この問題では、複数の資料から読み取ったことを適切な言葉や数値を用いて記述する力や、それらに関連付けて根拠とし、自分の考えを明確にする力が求められています。「読み取ったこと」と「分かったこと」、そして「どうしていききたいか」が区別できないという傾向があり、指定された条件どおりに文章を書く経験が不足していることが考えられます。

ウ 指導上の留意点

(ア) 小学校では、第5学年及び第6学年の「書くこと」の指導事項ウ・エにかかわって、事実と感想、意見などを区別して書く学習や図表やグラフなどを用いて自分の考えを伝えるように書く学習を行っています。このことは、中学校第1学年の「書くこと」の指導事項ウ「伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちの根拠を明確にして書くこと」につながります。

(イ) 指導に当たっては、実際に表やグラフを見て、具体的数値をあげて比較したり関連付けたり、原因を考察したりする言語活動を設定することが効果的です。書き上げたものを交流し、できるだけ多くの生徒作文に触れさせることも大切ですが、書く途中の段階で、表やグラフの様々な「読み方」に触れさせることと同時に、その妥当性について吟味することも大切にしましょう。

また、全てを一気に書かせずに、第一段階として「事実と考察を筋道正しく書ける」、それから第二段階として「それについてどう思うかという『自分の考え』を書く」という流れも大切にしましょう。

【複数の表やグラフを関連付けて読み、それを根拠として自分の考えを書く言語活動を段階的に取り入れた授業の展開例】

(教材：H30 新入生学調問題文)

導入	1 『「データを読む』とは、複数の数値を関連付けたり比較したりすることによって、考察を打ち出すこと』と確認する
展開	2 データを見て、気付いたことを確かめる (個→班) 3 班で整理した内容を学級で共有し、本当にそう言えるのか、全ての妥当性を吟味する 4 学級で共有した内容から一つを選び、それを根拠として、自分がどうしていききたいかを考える。口頭で確認する (班) 5 条件どおりに作文する 6 書き上げた作文を班で回し読みし、批評しあう
終末	7 授業を振り返り、自己評価をまとめる

2 資料A資料Bからそれぞれ読み取ったこと、それをもとに比べてわかったことを具体的な数値を上げて指摘する。

<ul style="list-style-type: none"> ・宿題以外の勉強時間は、小学生 34,0分、中学生 63,5分 ・ゲームをする時間は、小学生 42,3分、中学生 35,5分 ・携帯電話やスマートフォンを使う時間は、小学生 9,1分、中学生 40,6分 ・外での遊び・スポーツは、小学生 40,7分、中学生 17,1分 ・学校の宿題をする時間は、小学生 40,9分、中学生 43,1分 	<ul style="list-style-type: none"> ・約 30分も差がある。 ・約 7分中学生の方が少ない。 ・4倍以上に増えている。 ・約 23分もの開きがある。 ・2,2分しか変わらない。
---	--



グラフから分かる当たり前のことを書けばいいんだね。

求められているのは「自分だけが気づく独自性」ではなく、「誰もが納得できること」だよ。

4 中学生になった自分がこれからどのように時間を使いたいかについて、自分の考えを書くこと。

部活動で遅く帰るようになるから、外は暗くて遊べないに違いない。

携帯・スマホは、小学生のうち親と共有しているけど、中学生になると自分専用のものをもつ人が増えるからじゃないかな。

確かに「自分の考え」だけど、求められているのは理由じゃなくて、「自分がどうしていききたいか」だよ。

そうか、「資料の結果こうだけど、反対に自分はこうしたい」とか、「資料の結果はこうだから、自分も近づくようにがんばる」というような中味になればいいんだね。

7 授業を振り返り、自己評価をまとめる。

【生徒の振り返り記述より】

- ・「こうしていききたい」という自分の考えに、もっともしっくりくる根拠を書けばいいことがわかった。根拠をもとに自分の考えを言うことは様々な場面でいかせると思ったので、難しく考えずにあたっていきたい。
- ・一つのデータからではなく、複数のデータから、組み合わせたり比較したりする必要があるとわかった。
- ・データから読み取れることと、「どうしていききたいか」という自分の考えだけで書くのは物足りない感じがして、うっかり理由の考察まで入れそうになってしまったので、何を求められているのかよく確かめたい。